

# ル・ブリストル パリ Le Bristol Paris



高級ブランドが軒を連ねる「Faubourg Saint-Honore通り」に、ひと際華やかな雰囲気包まれたホテルのエントランスがゲストを迎え入れる



フランス政府が創設した新たなホテルの格付け最高位、「PALACE」のゴールドプレートが誇らしく輝く。5ツ星を超える格付けで、昨年5月の正式発表ではパリに4軒しか認定されなかった



メインエントランスにはベルスタッフのほか、回転ドアを担当する専任ドアマンも配置している。正面はコンシェルジュデスクで、向かい合った形でレセプションデスクがある

長年ホテルに住み着いている人気者の猫、ファラオン君。高貴な姿でロビーを歩き回る



筆者 小原康裕



ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健(株)代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



冬の夕暮れ時、ホテルが一番輝きを増すル・ブリストルのメインエントランス。1925年創業のパリでも屈指の名門で、大統領官邸エリゼ宮に隣接した立地に、世界中のVIP顧客とミシュラン3ツ星レストランを持つ、「パラス」の称号にふさわしい邸宅ホテルだ



3ツ星レストラン「Epicure」とコンファレンスルームを連絡するホテルを代表する優美な回廊。美しい芝生の中庭を眺められる



中庭ガーデン側から俯瞰した1階回廊と庭園側客室部分。右手にレストラン「Epicure」のテラス部分が見える



6階にある屋内プール施設に一步踏み入ると、そこは19世紀のヨット船室に迷い込んだ感覚になる。写真は小粋なデッキ室を抜けて小階段を上るところだ



チーク材とガラス窓のレトロ感覚たっぷりのプールで、良き時代のヨットをイメージしてデザインされた。左側から外のテラスに出られ、パリの街並みを一望できる



「Spa Le Bristol by La Prairie」のレセプションデスク。トレーニングジムのほか、子供連れでもスパ利用中に安心して預けられるキッズルームも完備している



スパ個室のトリートメントスイート。高級ブランド「La Prairie」社と独占契約した最新のボディケアが受けられる



中庭に面してテラスが附属する「Deluxe Suite」のリビングルーム。約90㎡の広さを誇り優雅なフェミニンの雰囲気が麗しい。ルイ15、16世様式の家具に囲まれ、さり気なく巨匠の絵画も掛けられているスイートルームである



リビングから続くベッドルーム。リビングと同じ明るい色調でゆったりとくつろげる。手前にはアンティーク調の鏡のワードローブがあり、カララ産大理石のバスルームへと続いている

去年2011年の5月5日、パリの最高級ホテルやグランメゾン関係者に或る衝撃が走った。これまでの5ツ星ホテルを超える新たなホテル格付けの最高位が創設され、フランス観光担当大臣によってこの日発表された。その名は“パラス”「PALACE」。最高の荣誉認定を受けた初のホテルは全フランスで8軒、パリで僅か4軒であった。ル・ブリストルはそのうちの一軒に認定された。ちなみにパリの他3軒はムーリス、プラザ・アテネ、パークハイアット・パリ・ヴァンドームである。

意外かも知れないが、フランスに5ツ星ホテルというものはつい最近の2009年まで存在しなかった。最高位は4ツ星デラックスというもので、09年7月のホテル格付け刷新の法改正で初めて5ツ星ホテルが誕生した訳だ。他方、これまでパリには“暗黙の了解”という形で7軒のパラスが存在していた。リッツ、クリヨン、ジョルジュサンク、ムーリス、プラザ・アテネ、フォーケッツ・バリエール、そしてル・ブリストルの7ホテルである。今回の政府認定の“パラス”格付け誕生で、これまで複雑を極めていたパリのホテル序列の混乱は解消され、新規参入ホテルの評価を含めてすっきりとした形に収まり歓迎したい。

あらためてル・ブリストルを考察すると、高級ブランドが軒を並べる華やかなフォーブル・サントノレ通りに位置し、大統領官邸エリゼ宮に近い1925年創業の老舗名門であり、世界中のVIP層を顧客に持ち、ミシュラン3ツ星レストラン「Epicure」を抱えるホテルとして、まさにパラスの称号にふさわしい。ホテル正面玄関にはパリ造幣局で特別に鑄造されたゴールドのプレート「PALACE」が誇らしげに輝いている。広大なフランス式庭園を中庭に持ち、マグノリアなどの木々が枝葉を広げるこの庭は、たおやかな親しみやすさを感じさせる。これほど贅沢な空間はパリにもそうあるものではない。

ル・ブリストルの名称はホテルのホスピタリティーに特別のこだわりを希求した、18世紀の英国貴族で旅行家のブリストル伯爵に由来している。ホテルの創業者はレストラン事業で財を成したイポリット・ジャメで、フォーブルの地にあったジュール・ド・カステラーヌ伯爵の邸宅を買い取り高級ホテルとして営業したのが始まりである。当時のフォーブルはエリゼ宮がフランス大統領の官邸となり、馬具商のエルメスやクチュリエのランバンがブティックを開くなど、今日のフォーブル・サントノレ通りの繁栄の基礎が芽生えていた。幾多の変遷を経てホテルは1978年にドイツのホテル運営会社のオトゥカー・グループに買収されている。現在はバーデンバーデンにあるドイツ最高峰の温泉保養ホテル、ブレナースパークホテルやコートダジュールを代表する名門、オテル・ドゥ・キャブ・エデン・ロック等と共にオトゥカー・ファミリーの一員となっている。

次回はル・ブリストルの後編としてミシュラン3ツ星レストラン「Epicure」を中心に連載予定。